

中教審答申：高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜の 一体的改革が求める今後の高大連携のあり方

中国学園大学 垂水共之

1. はじめに

平成 26 年 12 月に中教審答申（第 177 号）も「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」を受けて、平成 27 年 1 月には文部科学省より「高大接続改革実行プラン」が発表され、答申で先送りされた実施方法の検討のために「高大接続システム改革会議」が設置され、答申の肉付けがされている。答申の基本案を作成した高大接続特別委員会の元委員として、答申の背景の考え等にふれながら、これからの改革の方向性を眺めてみよう。

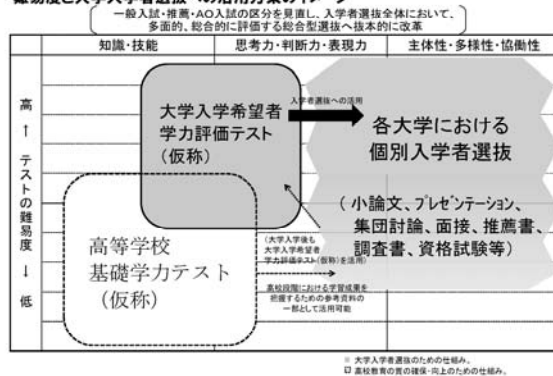
2. 新しい「学力観」

従来の「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を評価

3. 新テストについて

高等学校までの教育が変わっても、大学教育が、さらに大学への入り口である入試が変わらなければ、実効性を上げるのは難しい。このため、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」を導入する。前者は従来の教科型で知識・技能部分を中心に評価し、後者は知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力も評価できるように「教科」の枠にとらわれない「合教科・合科目」「総合型」を志向する。

「高等学校基礎学力テスト(仮称)」と「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の
難易度と大学入学者選抜への活用方策のイメージ



4. 統計学の役割

与えられた資料を基に考え、判断するような問題では統計的な見方が必要となることも多い。いずれのテストも最初は難しくても将来的には CBT(Computer Based Testing)を志向しており、アダプティブなれば、難易度の高・低でテストを分ける意味はなくなる。問題の難易度等のパラメータ推定や、年複数回実施（最低 2 回）となれば、その難易度調整をどうするのか、統計家に期待することも多々ある。

参考資料：子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について
(答申) (中教審第 178 号)